

1 策定の経緯と趣旨

時代の変化が激しい中、学校教育においては「新学習指導要領の全面实施」、「学校における働き方改革」、「GIGA スクール構想」の実現等、新たな政策が進められている。こうした社会的変化に対応した学校教育をより充実したものにしていくうえで、教師には、全ての児童生徒の可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学び（令和の日本型学校教育）の充実を通じて、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められている。

このような背景を踏まえ、宮崎県教育委員会では、「主体的に学び続ける教師」として本県の教員等に必要と考える資質能力を再整理するとともに、キャリアステージに応じて明確にした教員育成指標の改訂を行うことにした。

2 目的

昨今の教育的課題を踏まえた本県ならではの教員育成指標を改訂することで、教師一人一人の効果的・継続的に学び続ける意欲を喚起し、資質能力の向上を図ることができるようにする。

3 改訂の概要

(1) 共通的に求められる資質能力の再整理

共通的に求められる資質能力を、教職に必要な素養、学習指導、生徒指導、特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応、ICTや情報・教育データの利活用の5つの柱で再整理する。

(2) 本県ならではの課題に対応する指標の見直し

① 学力向上

主体的・対話的で深い学びを重視した授業改善を図る。

② いじめ・不登校問題

児童生徒理解を見直し、予防・解決に向けた適切な指導・支援を行う。

③ 特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対応

特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への理解及び支援について段階的に指標を示し充実を図る。

④ ICT活用能力の向上

ICTを効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを充実させる。

⑤ 若手教員の育成

大学との連携を図り養成期を見直し、基礎的な知識・技能と幅広い教養を身に付ける姿をめざす。

⑥ 働き方改革の推進

働き方や心身の健康に留意し、ワーク・ライフ・バランスを意識した自己管理能力を見直す。

(3) 校長に求められる資質能力の明確化

教師が高い資質能力を身に付け、質の高い教育を実現するためには、校長等の管理職のマネジメント能力の向上が必要不可欠である。研修履歴を活用した資質向上に関する指導助言等について基本的な考え方を明記する。

4 活用方法の明確化

「主体的に学び続ける教師」の実現のために、自己の資質能力の到達目標の目安として活用するとともに、宮崎県教育委員会等が行う研修のみならず、校内研修や職専免研修、日常的なOJT、研修履歴を活用した指導助言等、様々な資質向上の機会に広く活用できるようにする。